

Title	アカデミアと産業界の連携によるイノベーション人材の育成 : 大学外部法人の役割
Author(s)	犬塚, 隆志; 岡本, 摩耶
Citation	年次学術大会講演要旨集, 39: 1003-1004
Issue Date	2024-10-26
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/19604
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

2 G 0 3

アカデミアと産業界の連携によるイノベーション人材の育成 ～大学外部法人の役割～

○犬塚隆志 (つくばツインスパーク株式会社),
岡本摩耶 (つくばツインスパーク株式会社、ノクターンキャピタル株式会社)
inutsuka@tsukubats.co.jp

1. 緒言

産業界とアカデミアの協力を通じて、次世代の起業家育成を進めることは、現代のスタートアップ環境において不可欠である。日本ではスタートアップ創出において、特に経営人材の不足が課題となっている。多くの技術系スタートアップは、優れた技術や製品を持ちながらも、ビジネス面でのマネジメントや戦略立案が不足しているため、事業拡大に向けた成長が阻まれている。

本発表では、国立大学法人筑波大学が 100%出資する外部法人であるつくばツインスパーク株式会社と、同法人からスピナウトしたノクターンキャピタル株式会社が連携して行う取り組みに焦点を当て、経営人材の育成を含む実践的な人材育成に向けたアプローチを紹介する。

2. スタートアップ創出のボトルネックと EIR 制度 [1]

日本の開業率は諸外国に比べて依然として低く、その原因としては「新しいビジネスを始めるために必要な知識、能力、経験を持っている」と思う人の割合が低いことが挙げられる。このスキルギャップが、スタートアップ創出の大きな障壁となっていると考えられる。特に、経営人材の不足が技術革新を事業化する際の最大のボトルネックとなっており、技術者が優れた製品を開発しても、それを商業的に成功させるためのリーダーシップやマネジメント力が欠けていることが多い。つくば地域においても、学生や若者の間で起業家としてのスキルや実務経験の不足が問題視されており、これがスタートアップ創出のボトルネックの 1 つとなっている。

スタートアップ促進の新たな手法の一つとして、EIR (Entrepreneurs In Residence: 客員起業家) 制度が注目されている。EIR 制度は、ベンチャーキャピタル (VC) や事業会社に一定期間所属し、そのネットワークを活用して起業を目指すものである。EIR 活動を通じて、起業前からキャピタリスト等と事業設計を協議できることや、起業準備に専念できる環境が整備されている点で、これから起業を目指す個人にとって有益な制度とされる。特に、経営やマネジメントの経験が不足している技術者にとって、このような制度を活用することで、必要なスキルを補完できる点が大きな利点である。

3. 起業促進のための新たなアプローチ

つくばツインスパーク株式会社は、起業に興味のある学生を対象に、事業化の際に留意すべき点に関するディスカッションを実施し、学生の事業化力を涵養している。この取り組みは、技術的な知識だけでなく、ビジネス全体を見通す能力や、事業運営における戦略的思考を養うために重要である。経営人材が不足している日本のスタートアップ環境では、こうした事業化力を持った人材が事業の成否を大きく左右する要素となる。このディスカッションを通じて、学生たちは経営視点を持ち、事業化に向けた実践的なスキルを身につけている。

4. ノクターンキャピタルによる人材育成

つくばツインスパーク株式会社からスピナウトしたノクターンキャピタル株式会社は、スタートア

ップ支援とともに、次世代のリーダーとなる人材育成に力を注いでいる。特に、スタートアップの経営に必要なマネジメントスキルや事業戦略の立案力を涵養するためのマネジメント研修やインターンシップを提供するための準備を進めている。経営人材の不足が指摘されている日本において、ノクターンキャピタルは学生や若手起業家に対し、技術とビジネスの両輪をバランスよく回転させるための実務経験を提供する点と、社会が実際に直面している課題に対する解決策やアイデアを見出し、技術と結び付ける取り組みを行う点において特徴を有している。これらの取り組みによって、産業界で即戦力となる経営人材の育成を促進し、スタートアップ環境の活性化に貢献している。

5. 海外大学における次世代の起業家育成の取り組み

海外の大学においても、産業界との連携を通じて次世代の起業家育成の取り組みが進められている。例えば、デューク大学の Duke Capital Partners は、自大学の学生や研究者を対象に、VC としての実務経験（案件の発掘、スクリーニング、デューデリジェンス、運用など）を提供する集中プログラムを運営している。週 10 時間・2 年間のプログラムを通じて、学生は投資プロセス全体に携わり、VC に関する実践的なスキルを習得するとともに、スタートアップの経営者としての視点やスキルも養われていく [2]。また、マサチューセッツ工科大学 (MIT) を母体とする The Engine は、スタートアップの発掘や支援を通じて、起業家育成に貢献している [3]。これらの事例は、日本における学生の起業家育成による経営人材不足の解消にも参考となると考えられる。

6. 大学外部法人の役割～つくばにおける次世代の起業家育成

つくばツインスパーク株式会社とノクターンキャピタル株式会社は、アカデミアと産業界の橋渡し役として、学生に実践的な経験を提供し、実践的かつ創造的な人材の育成に取り組んでいる。企業が直面する課題に学生が取り組み、その解決策を提案し、技術と結び付ける経験を通じて、産業界で即戦力となるイノベーション人材の育成を推進している。特に、経営人材の育成が急務とされる中で、こうした取り組みは、多くの技術シーズを抱えるつくば地域において、技術系スタートアップが事業を成功させるための重要な支援策である。今後も、アカデミアと産業界のさらなる連携が進むことで、地域のスタートアップエコシステムが発展し、次世代の起業家が世界で活躍するための基盤が整うことが期待されている。

大学外部法人としての役割は、教育機関が提供する知識に加え、実際のビジネス環境に直結したリアルな経験を学生に提供し、彼らが実社会で真に価値を創造するリーダーへと成長させることにあると考える。つくばツインスパーク株式会社は、このビジョンを実現するため、ノクターンキャピタルが株式会社との連携により、今後も地域や産業界と連携しながら次世代の起業家育成に貢献していく予定である。

参考文献

- [1] EIR 制度の活用ガイドンス (<https://www.docswell.com/s/flag-jissui/K24831-2023-06-13-164208>) (最終閲覧日 2024 年 9 月 23 日)
- [2] Duke Capital Partners (<https://dukecapitalpartners.duke.edu/students/>) (最終閲覧日 2024 年 9 月 23 日)
- [3] The Engine (<https://engine.xyz/>) (最終閲覧日 2024 年 9 月 23 日)